

インターバンクの声（2015年6月30日）

ギリシャは6月中に数回予定されていた国際通貨基金（IMF）への融資返済を30日に一括返済することで合意していたが、週末に行われた財務相会合で金融支援の打ち切りが決定したためなのか、30日の返済は行わないとの意向を表明した。市場では、なかなか譲歩をして来ないギリシャ政府も最終的には緊縮案を受け入れるとの見方が大勢だったため、30日の返済期限目前での交渉決裂はやや想定外だったようだ。仮にギリシャがデフォルトに陥ったとしても、市場への影響は大きくないだろうと言われていたが、いざ足元でその可能性が濃厚となれば、さすがに金融商品によっては、それなりの影響が出ている。特に目立ったのが株価の反応。アジア株式市場の全面的な値下がり続き欧州株式市場の値下がり幅も最近になく大幅で、ニューヨーク・ダウも350ドル以上下げた。為替市場でも安全資産通貨とされる円買いが強く、ドルの反発が見られても123円で上値が抑えられている。7月5日に行われるギリシャの国民投票が終わるまでは、欧州連合（EU）やドイツなども協議に応じる構えのようだが、一週間前までとは打って変わって悲観論が増しているようだ。昨日は何故か結構回復を見せたユーロだが、ギリシャ絡みのヘッドライン次第では急落や反発を繰り返すことになりそうで、大きなポジションを持つ人も随分減ったようだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。